

有機米導入 成果聴く

学校給食 先駆市の経験

伊豆市は9日、農業や化学肥料を使用していない有機食材を学校給食に取り入れる「オーガニック給食」をテーマにした講演会を同市湯ケ島の天城会館で開いた。千葉県いすみ市農林課主査の鮫田晋さんが講師を務め、先駆的に学校給食への有機米導入を手がけた経験や思いを語った。関心のある市内外の約150人が、聴き入った。

(伊豆日日新聞 佐々木誠一)

伊豆市講演会に内外150人

鮫田さんは2013年から約4年かけて学校給食の有機米使用率100%を達成した経緯を説明した。▽有機農業者ゼロから4年で産地を形成▽学校給食における残食の減少▽イメージアップと認知度向上▽移住者の増加▽農業所得の向上など多くの成果を列挙した。



学校給食全量有機米化に伴い、給食費の月額が169円増えたことにも触れ「給食費の値上げは、家庭の所得に係るナーバスな問題になる。地場産有機米の学校給食には、自治体独自の財政的支援が必要」と強調した。最後は「子どもたちが成長し、やがて築く未来の食卓と、未来の食卓に支えられる農業・農村に大きく期待する」と力を込めた。

参加者からは「有機農業の定義」「いすみ市の仕組み」などについて質問もあり、鮫田さんが丁寧に答えた。

自身が取り組んだ先駆的な有機農業推進の経緯を語る鮫田さん―伊豆市湯ケ島の天城会館